介護労働懇談会の取組好事例（鳥取支部）

● 紹介パンフレット＆メンバーサイトＴＯＰページ

懇談会メンバーで「介護の日」をＰＲ

●開催日時
平成28年１１月１１日（金）

●開催場所
ＪＲ鳥取駅前、ＪＲ倉吉駅前、ＪＲ米子駅前

●目的
①学生などへのＰＲ
②介護職のイメージアップ

●開催方法
鳥取県介護労働懇談会メンバー４団体70名による「介護の日」啓発活動の実施
（鳥取県老人福祉施設協議会、鳥取県福祉保健部長寿社会課、鳥取県介護福祉士会、介護労働安定センター鳥取支部）

●実施内容
①のぼり旗、横断幕を掲げＰＲ
②チラシやティッシュが入った啓発グッズの配布
③「介護の日」であることの呼びかけ

「介護の日」で一斉啓発活動
県内3カ所でＰＲ

厚生労働省が定める「介護の日」の11日、介護の仕事について広く知ってもらおうと、鳥取県内の関係団体のメンバーたちが鳥取、倉吉、米子の各ＪＲ駅前で一斉に啓発活動を行った。

県老人福祉施設協議会（土井政史会長）、県介護福祉士会（三橋一久会長）、介護労働安定センター鳥取支部（宮本一郎支部長）のメンバー約70人が参加した。

このうちＪＲ鳥取駅北口で行われた活動には、若手の介護職員でつくる同協議会の21世紀委員会、同福祉士会の青年部ＵＰ！のメンバーら約20人が参加。のぼり旗や横断幕を掲げ、通勤や通学の駅利用者にチラシやティッシュの入った啓発グッズを配りながら「きょうは介護の日です」とアピールした。

同福祉士会の三橋会長は「特に学生に呼び掛けることで、将来の進路として介護の仕事を考えてもらえたら」と話した。（田村宏）

横断幕を持って介護の日をＰＲする関係者＝11日、ＪＲ鳥取駅北口

●取組みの効果
懇談会構成メンバーの関係機関が連携し、団結が深まった。
また、若者を中心にＰＲすることができ、将来の介護人材確保へつなぐことができた。翌日（11月12日）には、地元紙（日本海新聞）に取り上げていただき、広く周知することが出来、イメージアップが図られた。